

登録コード	T5A07200	開講年度	2026	市民開放授業			
授業科目	建築構法(16T以降)					担当教員	松田 昌洋
英文授業名	Building Construction					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	水曜・3時限	対象学生	建築学科2年生
講義室	工C3-100教室			授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	【授業で得られる「学位授与の方針」要素】				【授業の達成目標】		
	2.5Tカリ, 2.3Tカリ						
	【22T～】専門分野における専門的学力が身についている。				木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造の構法や各部構法について説明できるようになる。 木造建築の壁量計算ができるようになる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	防災減災						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	建築には様々な構法があり、木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造などの多種多様な構造がある。この講義ではそうした様々な構法やディテールを通じて建築物の構成について学ぶとともに、地震などの荷重に対する建築構造の考え方の基本を学ぶ。						
(5)授業計画	第1回(4/15): ガイダンス 第2回(4/22): 建築物の性能と構成要素 第3回(4/30): 荷重・外力と構造形式 第4回(5/13): 木造建築の構法(在来軸組構法、伝統構法) 第5回(5/20): 木造建築の構法(枠組壁工法、その他の木造建築) 第6回(5/27): 鉄骨造建築の構法 第7回(6/03): 鉄筋コンクリート造建築の構法(施工方法) 第8回(6/10): 鉄筋コンクリート造建築の構法(ラーメン構造、壁式構造) 第9回(6/17): 各部構法(地業、基礎、屋根) 第10回(6/24): 各部構法(壁、開口部) 第11回(7/01): 各部構法(床、階段) 第12回(7/08): 各部構法(天井、造作と納まり)、モジュール 第13回(7/15): 構造設計の概要 第14回(7/22): 木造建築の耐震設計(その1 壁量計算) 第15回(7/29): 木造建築の耐震設計(その2 4分割法)、授業アンケート 第16回: 期末試験 (*) 授業日程に変更がある場合は授業中や掲示等でアナウンスする						
(6)成績評価の方法	課題(20点)、期末試験(80点)によって成績を評価する。						
(7)成績評価の基準	(1) 建築物の構成要素と性能について理解しており、(2) 建築で代表的な木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造の構法や特徴についての基礎的知識があり、(3) 建築の各部位の構法や特徴についての基礎的知識があり、(4) 建築物に作用する荷重・外力について理解しており、かつ、(5) 建築構造についての基本的な考え方を身に付けていれば「卓越している」。4項目までできていれば「かなり上にある」。3項目までできていれば「やや上にある」、2項目までできていれば「水準にある」。						
(8)事前事後学習の内容	授業内容をふまえた課題を課す。 本授業は2単位であることから、90時間の学修が必要となる。 その内訳は授業時間30時間(2時間×15回)と自主学習時間60時間(4時間×15回)であり、教科書やノートを使用した自主学習を進めた上で授業に臨むこと。						
(9)履修上の注意	メールで講義の連絡をすることがあるため、メールやeALPSのアナウンスメントを定期的に確認すること。						
(10)質問,相談への対応	メールで対応する。 松田(mat@shinshu-u.ac.jp)						
(11)その他							
【教科書】	内田祥哉ほか: 建築構法 第五版、市ヶ谷出版社、3,000円+税 日本建築学会: 構造用教材、2014年改訂第3版、丸善出版、2,000円+税						
【参考書】	杉山英男ほか: 木質構造 第4版、共立出版、4,000円+税						